

[写]

日本高野連発第8072号

平成13年10月3日

高等学校野球連盟

会長

殿

財団法人 日本高等学校野球連盟

会長 牧 野 直 隆

不祥事件防止対策と発生後の処置について(通達)

都道府県高等学校野球連盟ならびに加盟校野球部では、野球を通じて健全な青少年を育成するという基本的な目的に沿って、ご指導いただいていることと存じます。

しかしながら、近年高校野球に関する不祥事が増加しており、大変残念なことです。中でも春夏の甲子園大会で数々の実績を挙げてきた強豪校での不祥事は衝撃的でした。部内における上級生の暴力事件で、旧態依然とした体質が残っていたことに加え、いじめ体的体質も見受けられ、フェアな精神を尊ぶスポーツ界として誠に寒心に堪えない内容です。

今年度発生した不祥事件は別紙資料にある通り、上半期だけでほぼ年間発生件数に近い状況で、過去3年間と比較して、どの種別の不祥事も増加傾向にあります。

また、不祥事の増加に加え、指導者がこれを速やかに所属連盟に報告せず、隠ぺい、そのまま大会に出場するという事例が増えてきています。不祥事が起きることも残念ですが、こうした意図的な隠ぺいは、高校野球の健全化を大きく損なうもので、全国の高校野球ファンを失望させるものです。

ついては、最近の不祥事発生傾向と問題点や対策を挙げましたので、都道府県高等学校野球連盟と加盟校が一体となって、不祥事防止と高校野球の健全化に一層のご努力をお願いいたします。

不祥事が急増

不祥事件発生の状況は別紙の通りです。指導者に関する事件では、野球部の指導上、思わず暴力を振るうという体罰も一向になくならず、鼓膜を損傷させるなどのけがも起きています。部員のふがいなさに、つい感情が高まってのことと思われますが、些かの暴力行為も絶対に戒めるという、強い信念を持って指導に当たって欲しいものです。

一方、部員に関する事件では、直接部活動に関した事件も多く、野球部全体の体質が問われる事件も増えています。特に部内での暴力事件や通学途上での飲酒、喫煙などの非行でも、その場にいる全員が簡単に同調してしまい、誰も静止するものがないのは大変残念なことです。

また、バイクに関する事件も跡を絶ちません。今年も無免許無謀運転により、死亡事故や重大事故が発生しています。バイクに興味を持つ世代ですから、交通安全教育も常日頃から繰り返し指導していただきたいものです。「ルールを守る」はスポーツの根源に係ることです。

報告遅れとその弊害

今年不祥事が発生しながら速やかに所属連盟への報告を怠る事例が目立ちます。中には学校長へも報告せず、部内で処理をしていた事件もありました。理由を調査すると、一様に「穏便に済ませたい」「被害者の家族から内密にと懇願された」「何とか大会に出場させてやりたい」というものでした。

こうした不正な処理の結果、さらに部内での暴力事件がエスカレートした事例もあります。一番顕著なのは日頃の指導方法に不満を持つ父母からの投書などを誘発していることです。

学校当局が、父母会や外部の関係者に揺さぶりをかけられるような遺憾な事例が跡を絶ちません。さらに事件が露呈すれば、改めて処分をしなければならず、当初部内でそれなりに指導した『指導措置』に加え、二重のペナルティを課すことになりかねません。そうした場合、学校当局はどのように事態を打開すべきか、非常に難しい解決策を迫られます。

当連盟では、事件後の処理に意図的な隠ぺいが認められる場合は、当該指導者に対し、有期の謹慎処分（期間中野球部の指導に携われない）を課します。誤った判断が、その野球部にとって取り返しのつかない事態を招くこととなります。どんな事情があろうとも、まず所属連盟に報告、事後の対応について助言を求めるなど、積極的に事件の解決に当たっていただきたいと思います。

合宿所などの留意事項

加盟校の中には合宿所が設置されているところもあります。通学困難な生徒への配慮や、より効果的な学校生活、部活動を行うのが目的だと思います。

ところがその一方で、合宿所内で起きる不祥事件も少なくありません。日常的に起きるので内容によってはより深刻な事件もあります。

先の強豪校の暴力事件の発端となった背景に、「付き人」といわれる慣習がありました。上級生の世話係という役割で、練習中だけでなく私生活全般にわたる内容でした。ここまで極端なケースはまれとしても、日頃下級生に使い走りやさせたり、荷物持ちや洗濯など私用に使うという慣習があるのを時折耳にします。「自分も下級生時代にやらされたから」と、連鎖

的に悪習が受け継がれていました。

学校当局は、合宿所を設置する以上、ぜひ教員が宿直業務に当たり、施設内での生活指導と管理にも十分気配りをしていただきたいと思います。

また、親元を離れて団体生活を行う上で、精神的な悩みや勉強、部活動など生活全般での悩み事や落ち込みが予想され、そうした場合に備えてのカウンセリングや日頃の変化にも留意していただきたいと思います。

合宿所が便利だからというだけで設けられているようでは、今後も問題の発生は必至です。

さらに家庭との連絡体制にも一層の留意が必要です。生徒が父母に報告する内容と実態との乖離が知らずしらずのうちに起きて、父母と学校当局の信頼関係が損なわれる事例も見受けられます。

これらは、下宿生活を続ける生徒にも同じ配慮が必要であることはいうまでもありません。

不祥事件防止対策

不祥事の防止対策としてまず挙げられるのは、学生野球がスポーツを通じて強靱な体力、精神力を培うと共に、フェアな精神を身につけるという本来の目的を常に自覚することです。これは部員だけでなく、ぜひ指導者もこうした姿勢を日頃から強く前面に打ち出していただきたいと思います。

他人に迷惑をかけないという最低限のモラルと共に、勇気を持って誘惑を振り切る強い気持ちを大切にしていただきたいと思います。

好きな野球がやれることにまず感謝をし、豊かで人間味あふれる部風を築く努力を中断なく続けていただきたいと思います。

勝利を目指して厳しい練習も当然必要ですが、練習が終われば上級生と下級生の分け隔てなく、和気あいあいとした雰囲気にも包まれるような野球部を目標にいただきたいと思います。

そうした努力が真のチームワークを醸成し、追い詰められたピンチに遭ってもベストのプレイが発揮できることに繋がります。

日頃指導に当たる先生方のご苦勞も想像に難くありませんが、身だしなみの乱れやそり込みなど、ちょっとした行為に気の緩みが現れ、不祥事へと繋がっていきます。

硬式野球ではその気の緩みが、重大な事故を招くことにもなりかねません。高校野球本来の目的意識を日頃のミーティングで十分話し合い、自らの意識を明確に持つことから不祥事の防止に努めていただきたいと思います。

以上